

令和3年度（2021年度）北海道社会教育セミナー 事業報告書

○ 事業の概要

1 事業名

令和3年度（2021年度）北海道社会教育セミナー

2 開催日時

令和3年（2021年）6月3日（木）9:00～17:00、6月4日（金）9:00～15:00

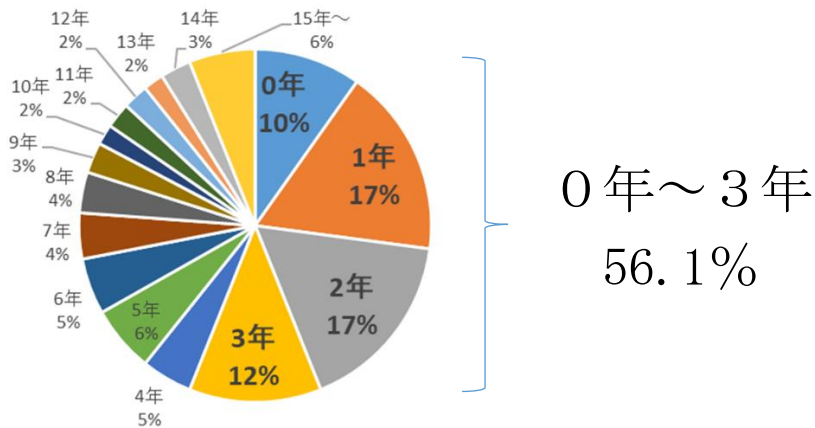
3 開催場所

オンライン配信（北海道立生涯学習推進センター 創作実習室）

4 参加人数

214名

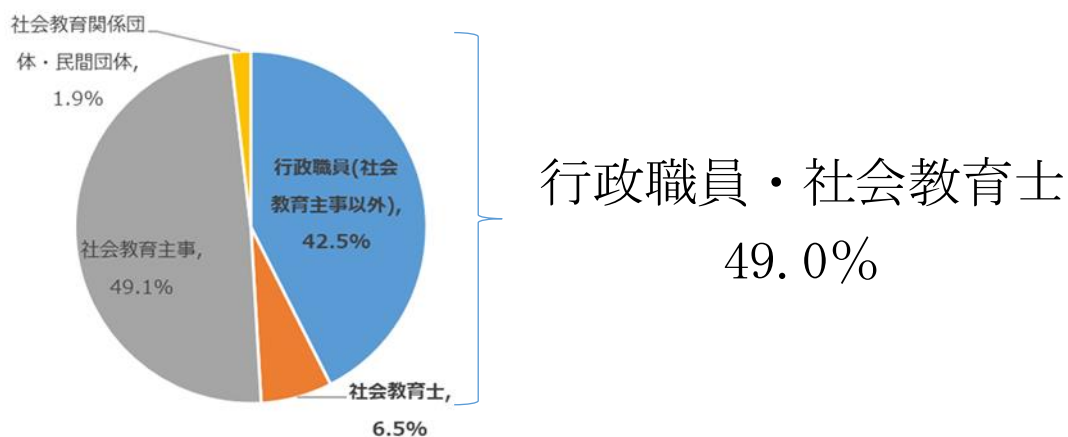
5 参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数



6 参加市町村数

空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	
7/24	6/8	9/20	4/11	5/7	3/11	6/7	
上川	留萌	宗谷	林-ツク	十勝	釧路	根室	全道
12/23	4/8	5/10	10/18	11/19	4/8	4/5	90/179

7 参加区分



8 プログラム

一 日 目	9:00	9:00～9:05	9:05～9:20	9:20～9:50	10:00～12:00	13:00～15:00	15:10～17:00
	開会	所長挨拶	行政説明	オリエンテーション テーマ説明	演習 1	演習 2	研究協議 1
二 日 目	9:00	9:10～10:30			10:40～12:00	12:00～12:30	13:30～15:00
	再開	講義			研究協議 2	まとめ・閉会	交流会

所長挨拶		・道教委の組織機構改正について ・社会教育セミナーについて	左記 2 点をお伝えする動画を作成し、放映した。
行政説明		・地学協働事業について ・社会教育主事講習について ・ネイパルの臨時休館について	左記 3 点を、各事業担当者が説明した。
演習 1・2	「体験を通じて、自分や他者のありように気づく」	一般社団法人	自らの自己肯定感が変容する実感を得ることで、その実感を住民にも得てもらうための手法(演習の方法、プログラムへの反映方法)を学んだ。
講義	「人との関わりを紡ぐ—自己肯定感を育むポイント—」	日本体験学習研究所 (JIEL) 研究員 岡田衣津子 氏	
研究協議 1	自己肯定感に働きかける事業プログラム作成	<想定するプログラム対象者> 【分科会 1】 未来を担う子どもたち 【分科会 2】 学校を核とした地域づくりの担い手 【分科会 3】 孤立しがちな地域住民 【分科会 4】 地域を担う若い働き世代・子育て世代	個人で「5W1H」で事業プログラムを作成し、分科会グループでの交流・検討を通じて、プログラム対象者の自己肯定感を育むための要素を洗い出し、グループ内及び分科会内で交流した。
研究協議 2			
交流会	フリートーク	任意の希望者によるブレイクアウトルームを活用した交流	申込の際に提案のあった課題(テーマ)ごとに出入り自由のルームを設け、交流した。

(1) 演習 1・2 「体験を通じて、自分や他者のありように気づく」詳細

自己肯定感を高めるキーワードとして「自分に気づく」、「自分の可能性を信じる」、「多様な他者とのかかわる」が掲げられ、「実際に体験する(他者とのかかわる)ことから、自己肯定感をほぐくむ方法を学ぶ」ことを目的に、様々な実習メニューが用意され、グループワークが行われた。

<例:実習「知ってほしい私のこと」>

JIEL 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「知ってほしい私のこと」

■手順: ①個人作業

- ・A5(A4半分)の用紙とマジックセットを用意
- ・紹介したい自分のことを4つ、以下の項目から選び、用紙を4つに分けて、文字、絵(線、形)で記入

★紹介する項目: 以下から4つ選んでください

・今の気持ち	・最近、楽しかったこと
・私の趣味・特技	・自分の好きなところ
・最近、ハマっていること	・私の学生時代の宝物
・私が好きな〇〇	・私の自慢
※(〇〇は自分で考えて)	・将来の夢
・私の強み	・この仕事に就いていなかったら
・休日の過ごし方	・ちょっと、聞いてよ!

※ 他に紹介したい項目があれば、自由に付け加えてください!!

JIEL 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「知ってほしい私のこと」

イメージにとらわれないで、自由に書いてね!

出来上がりイメージ

今の気持ち ドナドナ	最近、楽しみなこと 大河ドラマ
私の強み 酒が強い	おからだ いつこ 将来の夢 いなかでパン屋さん

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「知ってほしい私のこと」

■手順：②グループで、自己紹介しあう

- ・時間は、25分間です。(1人5分程度)
- ・メンバーの話を聞いているときも、ミュートを外してください。
- ・話題からそれない範囲で、感想を述べたり質問したりするのはOKです。

それでは、いってらっしゃい!!

9

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「知ってほしい私のこと」

■個人メモ：課題に取り組みながら、あなたが感じていたことや考えていたことは？
【自己紹介の紙を書いていたとき】

【自己紹介をしたとき】

【メンバーの自己紹介を聞いていたとき】

記入後、グループでわかちあいます

11

<例：実習「これが北海道だ！」>

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「これが北海道だ！」

■課題

グループで話し合い、「これが北海道だ」と思うものを決め、創造的なプレゼンテーションをしてください。

話し合いは30分、プレゼンテーションは各グループ3分程度です。プレゼンテーションの方法に決まりはありません。

18

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「これが北海道だ！」

■プレゼンテーション

各グループ3分間

発表者は大いにアピールしてください!!

※他のグループのみなさんは、励ましや感想を
どどんチャットに書き込んでくださいね！

19

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

実習「これが北海道だ！」

■ふりかえりシートの記入

事前にお渡ししている「ふりかえり用紙」に記入します。

- ・あなたが体験したこと(見たこと、気づいたこと、感じたこと、考えたこと等)を、できるだけ思い出して記入してください。
- ・具体的に、率直に記入してください。

20

JIEL 演習 体験を通して、自分や他者のありように気づく

フィードバックの留意点

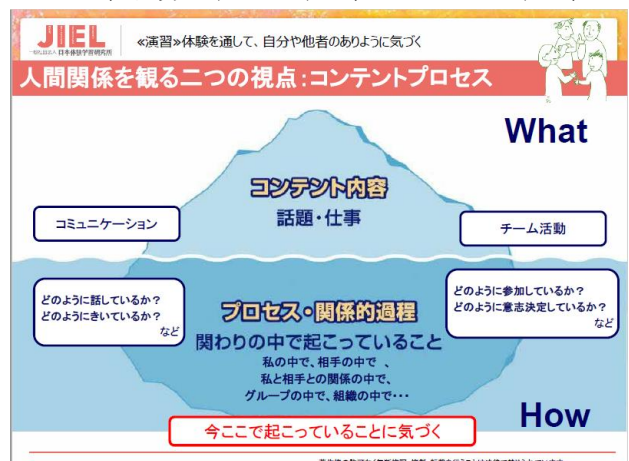
1. 記述的であること → ×評価しない!
2. 「私は・・・」のメッセージであること → ×「あなたは・・・」
3. 必要性が感じられること → ×自分の思いでコントロールしない
4. 行動の変容が可能であること → ×性格ではなく行動に対して
5. 適切なタイミングであること → ×ずっとため込まない
6. 伝わっているかどうかの確認をすること → ×一方的にしない
7. 多くのメンバーからフィードバックをもらうこと → ×特定の人だけでなく

フィードバックのフォーマット

あなたが_____をした時(行動)
インパクト(結果)を伝える
私は_____を感じました(感情)
私は_____を考えました(思考)
私は_____をしました(行動)

21

いずれの実習メニューにおいても、「他者と関わることで、自分や相手の中で、グループの中で、今、起きていること、具体的には『どのように話しているか?』、『どのように聞いていか?』、『どのように参加しているか?』、『どのように意思決定しているか?』等の『プロセス』に気づくことが重視された。



(2) 講義「人との関わりを紡ぐー自己肯定感を育むポイントー」詳細

講義後の研究協議での事業構想プログラムの作成の観点を参加者へ与えることを目的に、講師の岡田衣津子氏から、実際に名古屋市スポーツ市民局地域振興部地域振興課のコミュニティサポーターとして実践したことを題材に、どんなことをしたらどう参加者に変容が見られたか?の具体例が示された。

- 名古屋市コミュニティサポーター制度は、平成28年に創設されました。
 - 地域コミュニティの活性化支援を行っています。
- コミュニティサポーターとして関わった事例を2つ紹介します!!
- ① ボランティアグループ 自主運営化
 - ② 町内会長の成長

(3) 研究協議 1・2 「自己肯定感に働きかける事業プログラム作成」における各分科会のまとめ資料例

【分科会1】未来を担う子どもたち

研究協議	研究協議
<p>プログラムにどのような工夫を加えるか?</p> <p>①導入で行う「アイスブレイク」 →自己開示や自己肯定感を高めるため</p> <p>②ニックネームの導入 →自己開示し、打ち解けるためにニックネームで呼び合う。高校生ボランティアなどでも有効</p> <p>③目標設定 →参加した子ども自身が達成感を味わうことができるようにするため</p> <p>④みんなで振り返る場 →否定的なことは言わず、フィードバックや褒め合う場とする。</p>	<p>プログラム運営(演習)の際にどのような工夫を加えるか?</p> <p>①雰囲気づくり →みんなが参加できるように、配慮が必要な子への手立てや支援を用意する</p> <p>②1人1人の役割付与 →子ども自身がプログラムに主体的に関われるように役割を与える。</p> <p>③運営・主催者の声掛け →運営側も肯定的な表現で認められていることが実感できる声掛けをする。</p>

【分科会2】学校を核とした地域づくりの担い手

研究協議	研究協議
<p>プログラムにどのような工夫を加えるか?</p> <p>「<u>おまじの存在を体験</u></p> <p>「<u>できること増やす</u></p> <p>参加者が<u>当然の人</u> <u>かかわる場</u>をなく</p> <p>「<u>地域の人とつながる</u> <u>きっかけ</u>」</p> <p>「<u>体験学習</u>」 <u>後継過程</u>の導入</p> <p>「<u>運営を対話(アウトバウ)</u></p> <p>「<u>言語化(発信)</u>」の場面</p> <p>「<u>最終に通信をやりとり</u>」 <u>【学校や地域に!】</u></p>	<p>運営者のスタンス</p> <p>プログラム運営(演習)の際にどのような工夫を加えるか?</p> <p>「<u>自己肯定感を高める視点</u>」</p> <p>「<u>審判者としての視点</u>」</p> <p>「<u>気づき</u>」 <u>を育み出す</u></p> <p>「<u>あつめ</u>」 <u>肯定し</u> <u>い</u></p> <p>「<u>イメージ</u>」 <u>見本にする</u></p> <p>「<u>いいわ!</u>」の言葉</p> <p>「<u>参加者だけでやるスタンス</u>」に</p> <p>↓</p> <p>「<u>人さかいし</u>」 <u>【次につなげる】</u></p>

【分科会3】孤立しがちな地域住民

研究協議	研究協議
<p>プログラムにどのような工夫を加えるか?</p> <p>参加のハードルを低くするために、「10分でもという気楽なイメージ」</p> <p>継続的な支援のために「<u>元孤立住民</u>」への参画を呼びかける</p> <p>対象者だけでなく、それ以外にもちゃんとメリットがあるような構成に →支援される、支援する構図をとばろう</p> <p>あまり「おもてなし」をしすぎない、完璧にしすぎない →当事者意識をよみてるようにする</p> <p>「<u>お互いにメリットを</u>」</p> <p>「<u>お客さんにしない</u>」</p> <p>「<u>持続可能なものを</u>」</p> <p>「<u>できることを</u>」 <u>【できる範囲で】</u></p> <p>事業名:「<u>サードプレイスの創出事業(ネーミングは今後要検討)</u>」 <u>【ベンチでつながるわたしのまち】</u></p>	<p>プログラム運営(演習)の際にどのような工夫を加えるか?</p> <p>対象者を<u>限定しない</u></p> <p>「<u>ベンチワークショップ</u>」の開催</p> <p>「<u>0→1</u>」を大事にする</p> <p>(例) 資金づくり(クラファン、はね品、洗濯など) 材料集め 企画立案段階からの参画</p>

【分科会4】地域を担う若い働き世代・子育て世代

研究協議	研究協議
<p>プログラムにどのような工夫を加えるか?</p> <p>「<u>誰の自己肯定感</u>」</p> <p>「<u>実感を</u>」 <u>【得る!】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運営者へ参加者がフィードバックできる機会を設ける。(アンケートとか)→<u>成功体験からの運営者の自己肯定感向上</u> ● 単なるアイスブレイクではなく、参加者同士のコミュニケーションがとれるゲームを入れる。→<u>参加者の自己肯定感</u> ● 自分の長所に気づく振り返りシートの実施→<u>参加者の自己肯定感</u> ● 運営者の目標シートを共有する。→<u>運営者の自己肯定感</u> <p>「<u>これが俺たちのお化け屋敷だ!</u>」</p>	<p>プログラム運営(演習)の際にどのような工夫(心がけ)を加えるか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運営者、参加者をよく<u>観察</u>する。 ● 肯定的な声掛け。 <p>「<u>そのひと言でみんな元気になるわ</u>」</p> <p>「<u>それ、助かる!</u>」</p> <p>「<u>その表情いいわ!</u>」</p> <p>「<u>発言することがリアル!</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 働き世代は時間がなく、準備会議の欠席者を<u>置いてきぼり</u>にしない! <p>「<u>文書だけでなく、雰囲気も言葉で伝える</u>」</p> <p>「<u>それぞれ感じ方が違う。</u>」</p> <p>「<u>直接聞くとうまく</u>」</p>

(4) 交流会「フリートーク」で提案のあった課題

フリートーク 【テーマ(部屋)】

- ルーム1 コロナ禍におけるコミュニティ形成について
- ルーム2 コミュニティスクールの導入について
- ルーム3 地域創生に向けた学校連携について
- ルーム4 施設管理に関することについて
- ルーム5 コロナ禍での事業の開催や運営の方法
- ルーム6 地域住民同士の連携・協働と個人の自己肯定感のかかりについて
- ルーム7 地域の生涯学習・社会教育の「学びを支援する方法」とは
- ルーム8 学校教育改革と対比した社会教育の今後の在り方について
- ルーム9 講座内容の設定について
- ルーム10 ふるさとを知る学びをつくることについて
- ルーム11 担い手確保へ向けた誘因と動機付けについて
- ルーム12 オープンルーム

○ 成果と課題

参加者アンケートをもとに、「テーマ」と「運営方法」について、成果と課題を整理する。

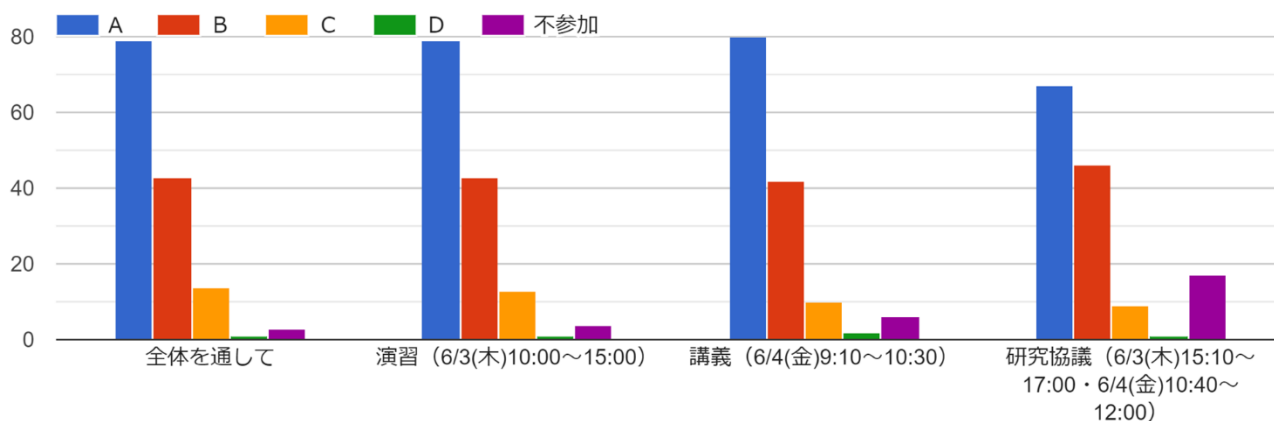
参加者アンケート回収率 65.4% (回答数140件/参加者数214名)

参加者アンケート実施方法 Google form

1 テーマ・内容について

(1) アンケート結果

3. 本セミナーの満足度をお聞かせ下さい。(満足度(高)A←→D(低))



4. 本セミナーに参加して、気づいたこと、感じたこと、これから実践したいと思ったこと等、御感想をお聞かせください。

【肯定的意見】

- 自己肯定感の高まりとともに、町内会長の成長のように何歳になっても学び、成長するチャンスがあるものだと再確認させられた。
- 自己肯定感や自己有用感を高めよう、という場に参加したことが今までなかったため新鮮だったとともに、自己開示やフィードバックを通して自己肯定感・自己有用感が高まるのを感じることができました。
- 地域の方と楽しい話をするところから、現実楽しい事業を行うことへと展開されていくことを学んだので、まずは地域の中に入りいろんな方とお話をしようと思いました！
- 今回の講義にて改めて自己肯定感の重要性を学ばせていただきました。
- 言葉の使い方の大切さを知ることができた。これから言葉の使い方を肯定的なものとするようにさらに意識していきたい。
- 対話をすることの重要性を感じました。
- 自分の自己肯定感が高まることによって、相手への肯定的な働きかけがより機能していくのではないかなと感じました。
- 社会構成主義の考え方はとても参考になりました。言葉の持つ意味、重みを改めて感じました。
- 大人にとっても自己肯定感を育てる意識は必要。社会教育、生涯学習の意義を感じました。
- 人とのつながりはやはり必要なのだなとも感じます。
- 講義の中で脳トレみどりの事例を聞いたとき、当町にも近いものを感じました。行政主体、行政だよりの団体運営を複数抱えており、今までは人口減少と高齢化による人員不足のためしょうがないと思っておりましたが、語る場の提供はしたことがなかったと気づきました。アプローチの仕方を少しずつ変えていきたいと思います。
- 具体的な結論を探求するのではなく、抽象的でもその過程が大事だと気づかされました。
- 学校教員は子供たちに当たり前のように相手の良さを見つけ、しっかり表現することができますが、今回の講義や演習を通して一般の方には意外と難しいことと気づきました。私たちがまず相手との対話を大切なことととらえ、対話を通して相手のよさを日頃から自然に伝えられるようにしていくことから始めていければと思います。

- ・これから事業を進めるにあたって、どのように工夫すれば参加者の自己肯定感が高まるのかというところを意識しながら取り組んでいきたい。
- ・自己肯定感を高めるための工夫について、大いに学ぶことができました。ありがとうございました。特に、参加者の自己開示、安心感を与える、主体的に学ぶことができる環境づくり等、分科会での議論で考えを深めることができました。
- ・自己肯定感を意識してプログラム作りをしていきたいと思います。
- ・自己肯定感向上を意識して、この仕事に勤めていきたいと思います。
- ・自己肯定感、自己有用感が様々なことに影響すること。
- ・自己肯定感を高めるためにはプログラムの工夫もさることながら、人と人の対話、その中で生まれてくるほめたり、認めたり、励ましたりする声かけの大切さを改めて感じました。
- ・自己肯定感を上げる方法について、参加者側の視点に目が行きがちですが運営側の視点も大事だと気づきがありました。グループワークの中でもいろいろと今後のヒントをもらいましたので非常に身になるセミナーでした。ありがとうございました！
- ・コミュニケーションを取っていくことの重要性を感じました。
- ・事業の中でお互いを認め合う工夫、仕掛けが今後不可欠になると感じた。
- ・自己肯定感、自己有用感を高めるために、改めて自分のことを見つめなおす手法を様々な場面で取り入れたいと思います。
- ・自己肯定感も大切ですが、地域肯定感も高められるよう実践したい。
- ・自分と関わる相手だけでなく、自らも尊重することも自己肯定感の向上になるのだと、改めてしれました。
- ・参加者及び運営者がお互いに自己肯定感を高めることが大切だと実感することができました。
- ・社会教育施設や下記市町村の教育委員会の事業など、もっと積極的に協力できるような繋がりを作りたいと感じた。
- ・対話の場づくり、フィードバックを充実させることをこれからの社会教育事業に落とし込んでいきたい。体験だけで終わっていた事業もあるので、上記のことを意識して行いたい。また、お互いを評価しあう（いいことについて）時間を作ることでお互いの自己肯定感を高めることができると思った。自己評価に関しても、始めと終わりで出来るようになったこと学んだことを振り返る時間を作ると良い。とても有意義な時間が過ごせました。このような環境を用意してくださりありがとうございました。
- ・今年度実施予定の事業プログラムについて考えていただいたので、出来る限り実践したいと思います。
- ・振り返りを行うとどうしてもマイナスイメージなことを言ってしまうがちでしたが、周囲からのフィードバックも盛りだくさんだったので、自己肯定感を感じることができました。見る人によって捉えられ方が異なり、興味深かったです。ありがとうございました。
- ・今までは研究協議が抽象的なことが多く、何を話していいのかわからないことが多かった。今回は具体的な事業から考えることができ、実際の仕事とリンクしてとても考えやすかった。よく、社会教育とはなにか、社会教育主事に求められる役割などいろいろあったが、なかなか難しいところが多かった。
- ・振り返りシートのフィードバックをした時に自分はほかの人からこういう風に見られていたというのが分かったのと、褒められたり肯定的な意見を言われたときにうれしいと思ったので、フィードバックをすることは自己肯定感を上げるために大切なことなんだなと思った。
- ・体験活動において自己肯定感、自己有用感を育むためにどのような活動を取り入れるとよいかを考え、交流を通して理解を深めることができた。
- ・今回の研修テーマである、他者との関わり合いの中で視点を広げられるようになりたいと思います。
- ・自己肯定感を高めるうえでプロセスやフィードバックの重要性を知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- ・自己有用感についてこれまでは考えたことがなかったので、新たな気づきを得られてよかったと感じた。
- ・自己肯定感を高めるための手法について学ぶことで、今後の事業企画や運営の参考となりました。今まであまり気にせず目的達成のみ意識していたので、参加者の行動変容や意識変容に繋がるようにしていきたいです。
- ・事業参加者の自己肯定感をどう高めるかなど勉強になりました。
- ・地域の意見を取り入れる際、行政がすべてを進めるのではなく、意見をどう引き出すかを誘発する策を考える良い機会となりました。
- ・自己肯定感を意識した事業づくりの観点では、これまでも意識せずに取り組んでいたことも多くあると感じました。講義等を通じて得た知識をプラスしたり、これまで自然と取り組んでいたことも意識的に取り組んでい

きたいと思いました。

- 自己肯定感を高めるためのフィードバックについて、理解することが出来た。今後は自己肯定感向上を念頭に置いて、事業展開をしたいと思う。
- コミュニティーサポーターとして関わった具体例を聞いたのが良かったです。
- 変な壁を作らず、フィードバックをしたり、受けたりすることができる人間関係を作っていきたい。
- 今回のグループワーク(これが北海道)など、実際に事業で実践したいと思いました。
- 実践的な演習すごくためになりました。今後の事業計画や事業運営に取り込んでいこうと思います。
- 教育行政に携わるのは1年目なので、オリエンテーションで今回の社会教育セミナーの目的の説明が簡潔で理解しやすかった。地学協働活動の推進が社会教育の発展ひいては地域の発展につながるということでは、これまでの仕事で携わってきた「地域づくり」の視点と同じなのだと気づくことができた。
- 自己有用感・自己肯定感を高めるためのコミュニケーションの方法を学ぶことができたとともに、今後の業務に非常に役立つと感じました。
- 講義の中で一番印象に残ったことは、「自己開示をすると人間関係が円滑になる」ということです。職場においても実践していきたいと思います。
- 学習者の自己肯定感を高めるため、学習に臨むにあたって、目標の共有や個人のねらいを設定できるような働きかけが重要だと感じました。

【批判的意見】

- コロナで事業が潰れていることもあり、経験の浅い人には研究協議の内容が難しかったように思う。初心者向けの分科会があっても良かったように思う。
- 社会教育の根本的な概念をもう少し知りたかった。
- 全体的に自己肯定感について学ぶ部分がほとんどだったので、もう少し社会教育的視点を含めたお話があると嬉しかったです。
- 自己肯定感を高める働きは、社会教育においてどの程度実践されていて、どのような効果が出ているのか実際の事例に基づいての話を聴く機会が今後あると良いと思った。お互いを褒めあうことも大事だが、そこばかりに焦点を当ててしまうと、綺麗ごとばかり、上部ばかりで、傷の舐めあいになったり、本音で語れない関係になってしまう危惧もあるのではないかと思います。関係性の構築といった視点から、自己肯定感を高める働きかけが大事なのではないかと思います。今回のワークも相手の発表の良かった点悪かった点をシェアする場面があるとより自分事として向上心をもって物事に取り組むことができるのではないのでしょうか。
- オリエンテーションの説明内容と研修内容とずれていると感じた。
- 自己に対して否定的になる時間も大事ではないかと思う。みんな違ってよいのでは？比べることに意味があるのかな？と思いました。
- 「自己肯定感の高め方」として講習をお聞きしましたが、班ごとの発表後の、最終的な自己評価発表時に、自分の参加した班は軒並み低かったので、難しいことだな、と思いました。

(2) 成果と課題

「セミナーの満足度」については、80%以上の参加者が「A」または「B」と回答しており、かつ、テーマに関して56件の自由記述の感想が寄せられた内、49件が肯定的意見であったことから、「人との関わりの中で、自分を認め、相手を受け入れる経験をとおして、自己肯定感が高まる実感を得る」というセミナーの目的が、多くの参加者の元で達成されたと考える。

一方で、社会教育、生涯学習に携わっている経験年数が3年以下という若手職員の方々が全体の参加者の半分以上を占める中、批判的意見として「社会教育の基礎的内容を求める声」も複数出ており、メインの参加者の経験年数や置かれている環境を踏まえてのテーマ設定が今後は必要である。

2. 運営方法について

(1) アンケート結果

【肯定的意見】

- オンラインでここまでできるのがすごいと感じました。そして、多くの人と話し、意見交換する機会をいただきありがとうございました。
- 通信障害時などの対応は良かった。

- ・交流の機会が多く、「ただ受けるだけの研修」でなかったことは大変良かった。
- ・積極的なグループワークの取り組みがとてもよかったです。直接は会えませんが新しいコミュニティを形成することもでき、研修の目的にプラスして同じ社会教育関係者としての仲間作りも十分に行うことができました。また、グループワークのおかげで自己肯定感を高めることができそのグループ内での声かけ等を現場にて児童生徒向けに問いかけてあげたいと思いました。
- ・コロナ禍でなかなか他の人たちの話を聞いたりすることが難しいので、このような機会にいろいろな話を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。ありがとうございました。
- ・他の市町村の方と情報交換もでき、有意義な時間でした。
- ・岡田講師の講義がとても参考になりました。また、実際に小グループで何度もワークを重ねることで「安心してきる場をオンラインでもつくることができる」ことを体感できました。ありがとうございます。
- ・これまで受講した Zoom の研修会は、講義形式が多くずっと受け身になることが多かったのですが、参加している感じが大きいセミナーは初めてでした。
- ・最初から一貫して同じグループ構成は交流の面からもすごくやりやすかったです。社会構成主義という言葉はとても参考になった。今後生かしていきたい。
- ・zoom での開催ということで分科会での話がスムーズにできるか不安でしたが、思っていたより意見交流が活発にできました。
- ・これまでの ZOOM 講習と比べ運営がスムーズで、非常に受講しやすかった。ほかの参加者とも意見交換の時間が多く、よかった。
- ・ブレイクアウトルームを活用しながらのオンライン研修が、非常に効果的でした。
- ・新たな発見があったというよりは、JIEL という団体を知ったこと、他市町村との交流が良かったです。体験を伴う研修は充実感はありますが、時間がかかるものですね。
- ・このコロナ禍の中、なかなか人と話をゆっくりする機会はなかったのですが、様々な方々と交流するところできとてもよかったです。人と話すことの大切さを改めて実感しました。勉強になりました。
- ・グループワークは zoom の機能を駆使することで、ここまで臨場感のある話し合いができると思っています。とても楽しかったです。
- ・2日間かけて同じ人と協議していくことがとてもよかった。
- ・岡田先生から聞く話とワークの連関が鮮やかで、面倒なワークも考えやすかったです。かくありたい。
- ・グループワークにおいては、画像や資料を参加者で共有を図り、オンラインにおいてもリアルに近い作業ができた一方で、google 等のクラウドアプリを使うとより良い共同作業ができたかとも思いました。良い学びの機会をいただきましてありがとうございました。
- ・オンラインも回数こなしてきたので、スムーズな進行だったと思います。
- ・Zoom を用いた研修会に参加することで、自町の事業手法の勉強にもなりました。
- ・本題に入る前の「自己紹介」や「今日の気持ち」を確認する手法など、参加者が話に入りやすいテクニックを学ぶことができたため、団体の会議など使える場面があれば直ぐにでも実践したい。
- ・ブレイクアウトシステムの活用は、時間的な短縮、人数配分、また参加者が必ず話す時間を確保されていた。オフとオンの使い分けもこれから十分に考えられると思いました。
- ・Zoom は初めてで、勉強になりました。今度は自分が Zoom を使っての事業を展開したい。
- ・本来であれば直接皆様とお会いして、交流できるのが 1 番ですが、中止ではなくオンラインにて開催していただけたこと感謝しております。
- ・zoom の可能性を強く認識しました。
- ・ZOOM の活用方法等、講義内容外の部分でも勉強になる点が多く、非常に参考となった。
- ・本研修会のグループワークではオンライン上ではあったものの、多くの時間を共にしたことで交流を深め、繋がりを作ることができました。
- ・オンラインでのコミュニケーションのとり方が参考になりました。
- ・昨年度からコロナ禍での研修ツールとして Zoom を活用する機会が増え、主催側・受講側ともに操作性が向上していると感じました。集会型でなくても、学びの場をつくることができると実感しました。特に、ブレイクアウトルームの活動では、これまでは時間が足りないこともありましたが、ゆっくりと時間が設定されており消化不良は少なかったです。

【批判的意見】

- ・毎回参加して感じるのですが、分科会の議論の内容が難しいので、話し合いがうまく進みません。もっとシンプルな議論になりませんか。話し合う過程を大切にするためにも、貴重な情報交換とするためにも課題提示をシンプルにしてほしいです。
- ・研究協議の課題である事業構想シートが少々難しかったです。何か例があればよかったですかなと思いました。
- ・タイムテーブルにできる限り沿って行った方がよい。
- ・直接顔を合わせて、研修に参加したかったです。
- ・目的が漠然としたままグループ部屋に移動させられる印象が強く、グループワークの回数を絞るか、目的をしっかりと明示して欲しかった。
- ・全体的に時間配分にゆとりがありすぎて間延びした印象がある。チェックイン、自己紹介、研究協議の時間はあんなにいらなかったのでは（話しが尽きて時間を持て余すことが多く、世間話でつなぐ場面も。これならもっと他の研修項目も入れられたのではと勿体なく感じた。当日の欠席があり、グループ内の人数が極少数人数になったためもあるかも。難しいですね。）演習、講義の内容も真新しさがなく、既に何度も社会教育の研修で触れられてきた内容を表面だけさらった印象がある。
- ・「演習」と「分科会」はグループを分けてもよかったのでは。多くの人ともっと交流できたら良かったなと思います。
- ・オンラインでの実施でしたので、タイミングが難しかった。
- ・今後、センターが主催する研究会に関わって、ネイパルには指定管理者への案内だけでなく、駐在の社会教育主事にも案内を発送していただくようお願いいたします。メールでもいいので、よろしくお願いいたします。今回は参加案内がなかったため申し込みが遅れてしまいすべての日程に参加できなかったのも…。
- ・同じグループで長時間の演習が大変だった。
- ・分科会（学校を核とした地域づくり）でしたが、単なる市町村や道立施設の事業になっていて、分科会1と変わらない。分科会の協議の視点（学校を核とした）をしっかりとしないと、分科会に分かれる意味がない。
- ・2名以上の団体参加と個人参加が協議を行うのは、やりづらい面がありました。
- ・今後の参考のため、皆さんの事業構想シートが見たかったです！
- ・最後のグループ協議で、センター職員の声がPC越しに重なっていました。（萌さんと松浦主査の声かと思えます。可能であれば、司会等が想定されている場合は空間を分けて運営できると良いかと感じました。）
- ・zoom開催のため少しグループでの意思疎通が難しく、研究協議は不十分な結果になったと個人的には感じました。
- ・分科会では、「どうしたらいいかわからない」「もっと考え方や知識を学びたい」と思って選択したのですが、いきなり少数の小部屋に分かれて事業構想を考えていくのは厳しかった。少しでも、その分科会テーマについての講義があり、考えが深まってから、その内容を踏まえた研究協議が出来ればよかった。また発表したことについて、ホストの方から講評や評価を受けられればよかった。発表を聞いた方々の感想しか聞かれず、考えた内容が本研修の内容に沿っていたのかどうかも不安なまま、満たされないまま終わってしまった。
- ・演習で同じ自治体の職員と2人つきりになってしまい、あまりグループでの話が盛り上がらなかったので、次回以降メンバーの割り振りを考えていただくとありがたい。
- ・Google フォームでデジタルアンケートを取る場合には、回答者に対して、メールアドレスの収集をしているかどうかを明示するのが良いかなと思いました。
- ・今回の研修では、休憩時間が参加者同士寸断されていたので、雑談をする時間があるといいんだろうなという気づきがありました。このようにグループワークを多く取り入れる場合、実は、ワークの中身よりも雑談こそがアイデアの幅を広げる可能性を秘めていると感じました。

(2) 成果と課題

「オンライン開催」、「ブレイクアウトルームによる頻繁なグループワーク」、「セミナーを通しての一貫したグループ編成」による運営は、多くの参加者から肯定的に受け入れられたと考える。

一方で、研究協議（分科会）の「わかりにくさ」及び「難しさ」を指摘する声も多く、研究協議（分科会）で設定した「視点（対象）」への参加者の理解を促す機会と、「シンプルさ」が必要であった。

また、セミナー時間外のフリーの交流会の時間は好評であったため、今後も同じような交流の機会をセミナーごとに設定していくことが重要である。